

高橋章教授退職記念号に寄せて

高崎経済大学経済学会副会長 高 松 正 毅

高橋章先生が、平成24年3月31日をもって高崎経済大学経済学部を定年にて退職されます。経済学会より本退職記念号を発刊するにあたり、ここに一言申し述べさせていただきます。

高橋章先生は、本学に昭和45（1970）年に助手として着任され、昭和49年には講師、昭和53年には助教授、平成4年には教授になりました。

ご着任が昭和45年ですから奉職40年以上となります。これほどの長きにわたり本学の教育・研究・実務に尽力される方は、今後決して現れることはないでしょう。

学外におかれましては、関東大学体育指導者連合会常任理事、財団法人日本サッカー協会の技術委員および科学委員、文部省スポーツ指導員養成講習会講師、関東サッカー協会女子連盟委員長、群馬県サッカー協会副会長、高崎市サッカー協会副会長、関東大学サッカー選抜チーム監督、群馬県赤城58国体サッカー強化委員長などを歴任なさいました。

以上のご業績からも分かるとおり、高橋章先生の専門はサッカーであり、サッカー抜きに先生を語ることはできません。

学内におきましては、教養教育委員長、学生委員長、経営学科長などを歴任され、サッカー部の監督兼部長を筆頭に、バスケット部顧問、硬式テニス部顧問等をお務めになりました。

担当科目は、「健康スポーツ概論」「スポーツ科学論」「生涯スポーツ論」です。本学の保険体育科目を通し講義内容の教授にとどまることなく、学生同士の交流による友との絆づくりにまで心を砕いておられました。学生思いで、親身になって学生の相談に乗るバイタリティーと情熱にあふれる熱血漢でいらっしゃいました。

印象深いことに、「運動」と「スポーツ」を峻別されたことがあります。「適度な運動を心がける」とは言っても、「適度なスポーツを心がける」とは言いません。「準備運動」とは言っても「準備スポーツ」とは言いません。すなわち、単に体を動かすだけの物理的な「運動」と、勝ち負けをかけ互いに切磋琢磨し合い精神まで鍛える「スポーツ」とははっきりと区別する必要性がありま

す。

スポーツをすることにより、基礎体力や運動能力が高まり、結果として生活の質そのものが向上します。主体的かつ積極的にスポーツに参加することにより、自立心や自律性が高まります。

これらは「社会人基礎力」にも掲げられた「チームで働く力」、たとえば社会性や協調性を養うことに、さらにはコミュニケーション能力を伸ばすことにもつながります。

高橋章先生が高崎経済大学から去られることは、本学にとりましてたいへん大きな損失です。ここに改めまして高橋章先生のますますご健勝とご活躍を祈念し、幸多からんことを心より願ひまして記念号の序といたします。

高橋章先生、長い間ほんとうにありがとうございました。

高橋章教授退職記念号に寄せて

高崎経済大学学長 石川 弘 道

今年もまた先輩を送る時がやってまいりました。高橋教授の定年退職記念号に惜別の一文を記すに際し、先生のお名前の「高橋章（たかはしあきら）」をおりこんで、一首詠うこととしました。

高く蹴り
走る額に
汗光る
鍛えし技で
楽々シュート

高橋教授は群馬県にお生まれになり、日本体育大学体育学部をご卒業の後、1年間の高校講師を経て、高崎経済大学経済学部の助手となられ、講師、助教授、教授として42年の長きに亘り、スポーツ教育に携わってこられました。退職時の担当科目は、「スポーツ科学概論」、「健康スポーツ概論」、「生涯スポーツ論」であり、「体育」ではなく「スポーツ」という言葉にこだわりがあったように思います。

スポーツの中でも専門はサッカーであり、(財)日本サッカー協会の技術委員(公認Aコーチ)と科学委員であり、関東大学体育指導者連合会の常任理事も務めてこられました。また、学内でも体育会本部の顧問や運動部の顧問として、本学のスポーツの指導に尽力されてこられました。現役選手として活躍された時代の高橋青年を見てはおりませんが、多分先ほどの歌のように颯爽と駆け回っていたのではないかと想像しております。

さらに、学内では経営学科長、学生委員長、教養教育委員長を歴任され、大学の発展に大きく貢献されてこられました。

ご退職後も、非常勤講師として学生のご指導をいただくこととなりますが、健康に留意され地域のスポーツ振興にもご尽力いただければと存じます。結びに、先生の益々のご発展を祈念申し上げるとともに、本学に対する長年のご貢献に感謝申し上げます。